

燃料油高騰の運賃転嫁状況アンケート調査結果について
(平成 25 年 4 月現在)

日本内航海運組合総連合会
運賃・用船料委員会

I. アンケート実施概要

アンケート実施期間 平成 25 年 5 月 23 日～平成 25 年 7 月 12 日

(前回調査) 平成 24 年 11 月 8 日～平成 24 年 12 月 26 日

対象事業者数 : 196 事業者 (内航総連合会実施の輸送実績調査対象事業者 (元請けオペレーター))

回答事業者数 : 104 事業者 (前回調査 106 事業者)

有効回答率 : 53% (前回調査 53%)

捕捉率 : 年間輸送量ベース 74% (前回調査 77%)

(回答事業者の平成 24 年度年間輸送量 (301,986 千 t,kl)

÷24 年度内航船全輸送量 (408,274 千 t,kl) : 内航総連合会調査)

: 年間消費量ベース 70% (前回調査 67%)

(回答事業者の平成 24 年度年間燃料消費量 (1,699,379kl)

÷24 年度内航輸送船舶統計年報による年間消費量 (2,423,290kl)

II. 調査結果の概要

(1) 全体調査

① 平成 17 年 3 月末 (A 重油 40,900 円/KL C 重油 30,800 円/KL) と平成 25 年 3 月末 (A 重油 83,000 円/KL C 重油 70,050 円/KL) との価格差 A 重油 42,100 円/KL C 重油 39,250 円/KL の荷主への転嫁率は、RORO・コンテナ貨物 (+1%)、特殊タンク (+10%)、砂・砂利 (+3%)、石灰石(+1%)、その他 (+21%) の 5 品目の改善が見られた。一方で、一般貨物船鋼材以外 (-2%)、一般貨物船鋼材(-5%)、ケミカル(-8%)、石油 (-2%) の 4 品目は前回調査を下回った。全品目の平均は前回調査とほぼ変わらず 74%となった。

② 転嫁率が 20%未満の該当事業者は、前回調査より 6 事業者少ない 22 事業者となり全体の 2 割を占めている。0%の事業者については前回より 8 社減少し 15 社 (14%) となった。燃料油の高騰状況の中にあって、価格転嫁がなされていない現状について懸念される。

(2) 品目別調査

① 転嫁率の高い品目は、コスト保証方式が定着しているセメント(100%)、バンカーサーチャージ方式 (以下、BS 方式) の割合が高い石灰石(95%)、一般貨物船鋼材 (87%)、自動車 (83%) となっている。また、砂・砂利については、コスト保証による転嫁の回答が 1 社あり、転嫁率は (88%→91%) と増加した。

その他 (48%→69%) の回答の中で、石炭及びコークスを輸送している回答が増えており、前回より転嫁率が改善している。

- ② 転嫁率の低い品目は、ケミカル (54%)、一般貨物船鋼材以外 (55%) の 2 品目となった。
- ③ 転嫁方法については、運賃値上げ方式 (13%→11%)、BS 方式 (52%→58%)、コスト保証方式 (35%→31%) となった。
- ④ 満足度については、現状の転嫁状況について不満と回答した件数は (42%→37%) となり、満足と回答した件数は (52%→57%) となった。
- ⑤ 転嫁率 0%の品目別件数については、一般貨物船鋼材以外 (20 件→15 件)、石油 (8 件→6 件)、一般貨物船鋼材 (6 件→4 件)、ケミカル (5 件→4 件)、特殊タンク (4 件→4 件)、砂・砂利 (3 件→2 件) となっている。

III. 調査結果

1. 燃料油の年間消費量について

(単位:KL)

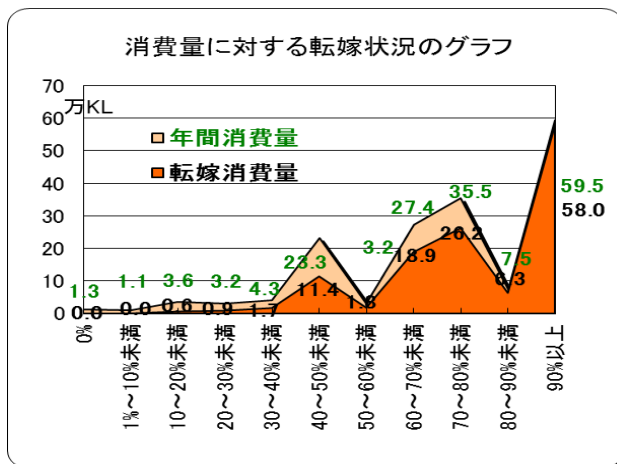
調査時期	A 重油	割合	C 重油	割合	計
平成 24 年 10 月	510,379	32%	1,064,630	68%	1,575,009
平成 25 年 4 月	497,146	29%	1,202,233	71%	1,699,379

今回の調査で有効回答のあった内航主要オペレーター104社(全輸送量の74%)の年間消費量は、約170万KLとなり、平成24年度内航船舶輸送統計年報による年間消費量約242万KLの70%となった。

2. 燃料油価格値上がり分の転嫁状況

転嫁割合	平成25年4月調査						平成24年10月調査					
	年間消費量	割合	転嫁消費量	割合	該当社数	割合	年間消費量	割合	転嫁消費量	割合	該当社数	割合
0%	13,177	1%	0	0%	15社	14%	31,481	2%	0	0%	23社	22%
1%~10%未満	11,189	1%	419	0%	3社	3%	2,101	0%	177	0%	3社	3%
10~20%未満	35,674	2%	5,967	0%	4社	4%	24,454	2%	3,908	0%	2社	2%
20~30%未満	31,863	2%	8,769	1%	7社	7%	15,881	1%	3,927	0%	2社	2%
30~40%未満	42,671	3%	16,884	1%	4社	4%	71,545	5%	27,287	2%	6社	6%
40~50%未満	233,445	14%	113,996	8%	12社	12%	74,011	5%	34,894	3%	9社	8%
50~60%未満	32,234	2%	17,763	1%	5社	5%	124,849	8%	70,657	6%	5社	5%
60~70%未満	273,792	16%	188,683	13%	8社	8%	371,844	24%	248,431	21%	9社	8%
70~80%未満	355,256	21%	262,225	19%	7社	7%	99,309	6%	77,589	7%	10社	9%
80~90%未満	74,854	4%	63,041	15%	8社	8%	249,506	16%	206,768	18%	6社	6%
90%以上	595,224	35%	579,797	41%	31社	30%	510,028	32%	499,898	43%	31社	29%
計	1,699,379	100%	1,257,542	100%	104社	100%	1,575,009	100%	1,173,536	100%	106社	100%
	転嫁率74%						転嫁率75%					

*小数点以下四捨五入のため、%の合計が100%にならない。



転嫁消費量は全体として約126万KLとなり、転嫁率は前回調査とほぼ変わらず74%となった。
 転嫁率が0%の事業者数は前回より減少して15社となっている。
 転嫁率の20%未満の事業者数は前回調査より6社減少して22社となっている。
 一方で、80%以上転嫁された事業者数は前回調査より2社増加して39社となった。
 未転嫁の燃料油は全体の約1/4となり約44万KLにのぼる。

3. 品目別転嫁状況

(1)品目別に転嫁の程度・転嫁方法・燃料消費量別に集計した結果は、つぎのとおりである。但し、品目別の回答は、1事業者が複数回答するため回答件数が回答事業者より多くなる。

全体

平成25年4月										平成24年10月							
No.	品目名	燃料消費量		転嫁量及び転嫁率			転嫁量内訳(%)			燃料消費量		転嫁量及び転嫁率			転嫁量内訳(%)		
		該当件数	消費量	該当件数	転嫁量	消費量に対する転嫁率(量)	①運賃値上げ	②ハンカーサーチャージ	③コスト保証	該当件数	消費量	該当件数	転嫁量	消費量に対する転嫁率(量)	①運賃値上げ	②ハンカーサーチャージ	③コスト保証
1	RORO・コンテナ船貨物	14	490,310	13	328,609	67%	5%	75%	20%	15	422,555	14	278,891	66%	5%	69%	26%
2	一般貨物船鋼材以外	38	85,324	26	46,547	55%	27%	65%	8%	58	148,284	44	83,855	57%	30%	35%	35%
3	一般貨物船鋼材	20	177,753	16	155,264	87%	32%	64%	4%	23	189,394	16	174,019	92%	31%	66%	3%
4	ケミカル	37	118,219	32	64,226	54%	17%	52%	31%	31	94,615	31	58,513	62%	32%	34%	34%
5	石油	30	372,903	24	272,487	73%	0%	42%	57%	29	394,990	27	298,210	75%	1%	47%	52%
6	特殊タンク	29	100,335	24	74,230	74%	3%	60%	37%	25	63,104	31	40,495	64%	5%	51%	44%
7	砂・砂利	3	3,122	1	2,844	91%	0%	0%	100%	4	3,373	1	2,979	88%	0%	0%	100%
8	石灰石	16	50,697	14	48,207	95%	0%	69%	31%	14	54,923	17	51,491	94%	1%	62%	37%
9	セメント	16	115,746	15	115,744	100%	0%	37%	63%	13	109,317	18	109,317	100%	0%	26%	74%
10	自動車	6	135,426	6	111,906	83%	36%	62%	3%	7	87,848	5	72,593	83%	53%	40%	7%
11	その他	26	49,543	22	34,085	69%	7%	53%	40%	4	6,606	2	3,173	48%	0%	100%	0%
合計		235	1,699,379	193	1,254,149	74%	11%	58%	31%	223	1,575,009	206	1,173,536	75%	13%	52%	35%

①転嫁率が前回調査を上回った品目としては、砂・砂利(88%→91%)、石灰石(94%→95%)、特殊タンク(64%→74%)、

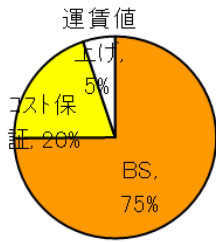
RORO船・コンテナ貨物(66%→67%)、その他(主に石炭・コークス)(48%→69%)の5品目となっている。

②前回調査を下回った品目としては、一般貨物船鋼材以外(57%→55%)、一般貨物船鋼材(92%→87%)、ケミカル(62%→54%)、石油(75%→73%)の4品目となっている。

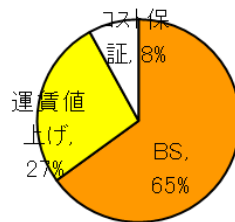
③前回と同じ品目としては、セメント(100%→100%)、自動車(83%→83%)の2品目となっている。

(2) 品目別転嫁方法の傾向について

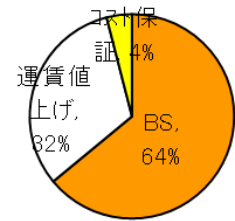
RORO・コンテナ船貨物



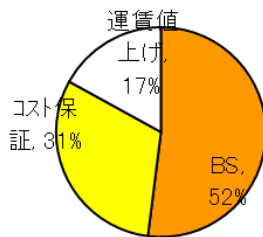
一般貨物船鋼材以外



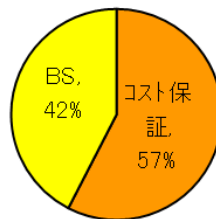
一般貨物船鋼材



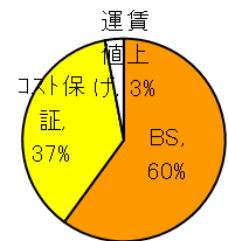
ケミカル



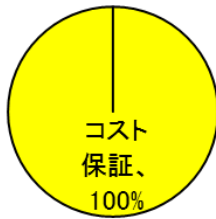
石油



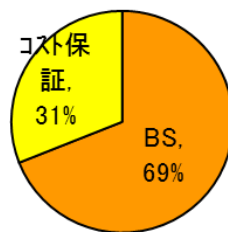
特殊タンク



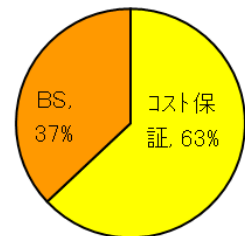
砂・砂利



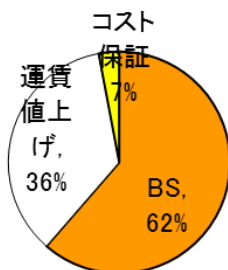
石灰石



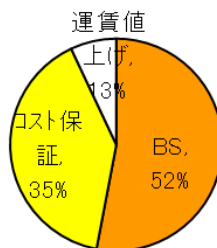
セメント



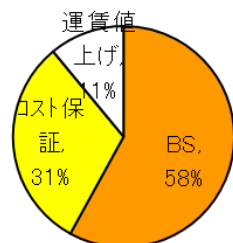
自動車



その他

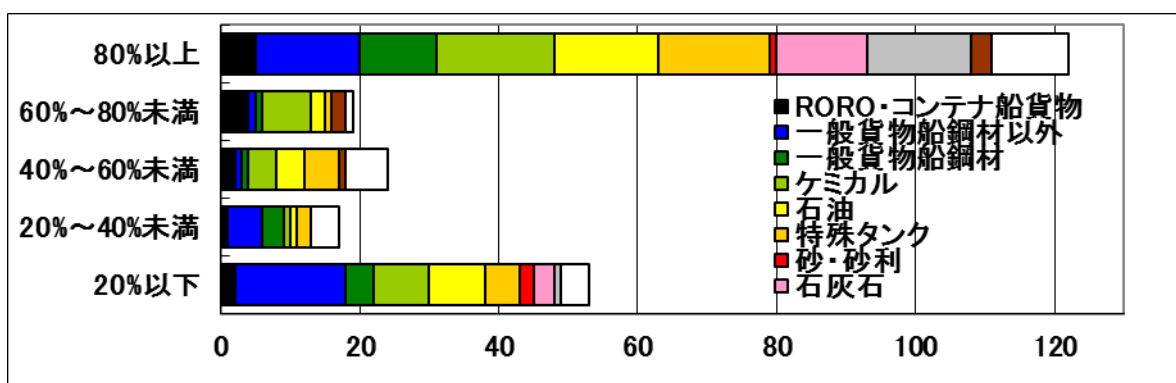


全体



(3) 品目別転嫁割合の該当件数について

品目別転嫁率傾向						
品目/転嫁割合	20%以下	20%~40%未満	40%~60%未満	60%~80%未満	80%以上	計
RORO・コンテナ船貨物	2	1	2	4	5	14
一般貨物船鋼材以外	16	5	1	1	15	38
一般貨物船鋼材	4	3	1	1	11	20
ケミカル	8	1	4	7	17	37
石油	8	1	4	2	15	30
特殊タンク	5	2	5	1	16	29
砂・砂利	2	0	0	0	1	3
石灰石	3	0	0	0	13	16
セメント	1	0	0	0	15	16
自動車	0	0	1	2	3	6
その他	4	4	6	1	11	26
計	53	17	24	19	122	235



4. 運賃への転嫁の現状に対する事業者の各品目別満足度について

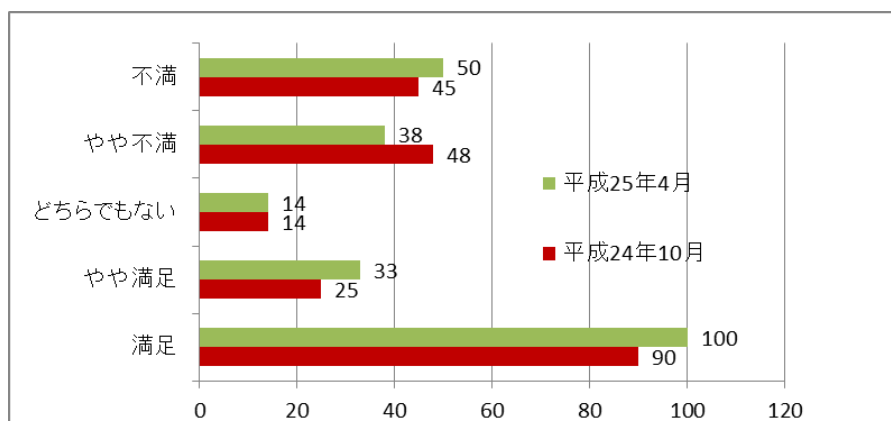
(1) 全体

満足・やや満足の割合は前回調査とほぼ同じ結果となった。(52%→57%)

不満・やや不満については前回調査と同様の結果となった。(42%→37%)

現状	平成25年4月		平成24年10月	
	該当数	割合	該当数	割合
満足	100	43%	90	41%
やや満足	33	14%	25	11%
どちらでもない	14	6%	14	6%
やや不満	38	16%	48	22%
不満	50	21%	45	20%
合計	235	100%	222	100%

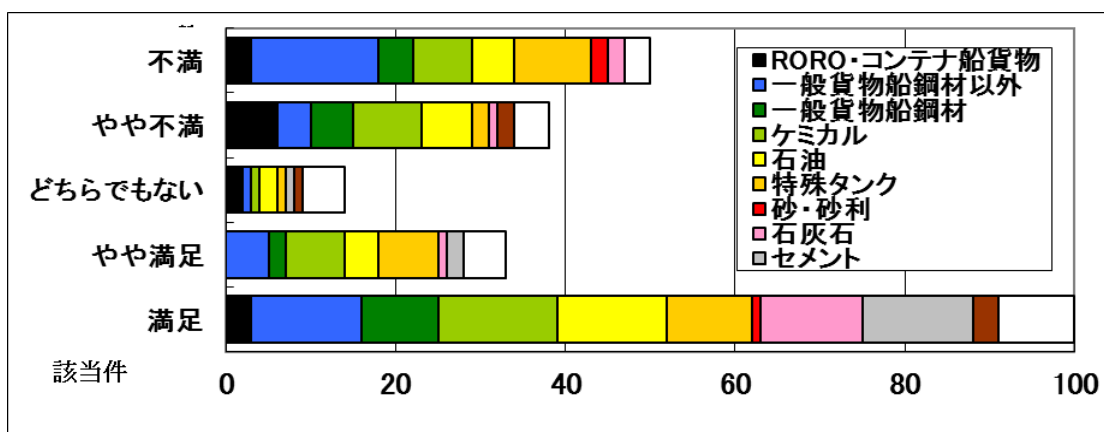
※%の合計が必ずしも100%にならない場合がある。



(2) 品目別満足度の割合について

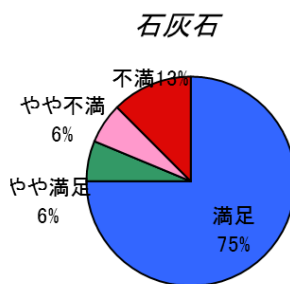
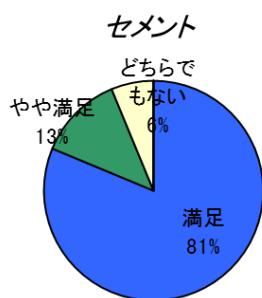
品目	満足	やや満足	どちらでもない	やや不満	不満
RORO・コンテナ船貨物	3	0	2	6	3
一般貨物船鋼材以外	13	5	1	4	15
一般貨物船鋼材	9	2	0	5	4
ケミカル	14	7	1	8	7
石油	13	4	2	6	5
特殊タンク	10	7	1	2	9
砂・砂利	1	0	0	0	2
石灰石	12	1	0	1	2
セメント	13	2	1	0	0
自動車	3	0	1	2	0
その他	9	5	5	4	3
計	100	33	14	38	50
構成比	43%	14%	6%	16%	21%

※%の合計が必ずしも100%にならない場合がある。



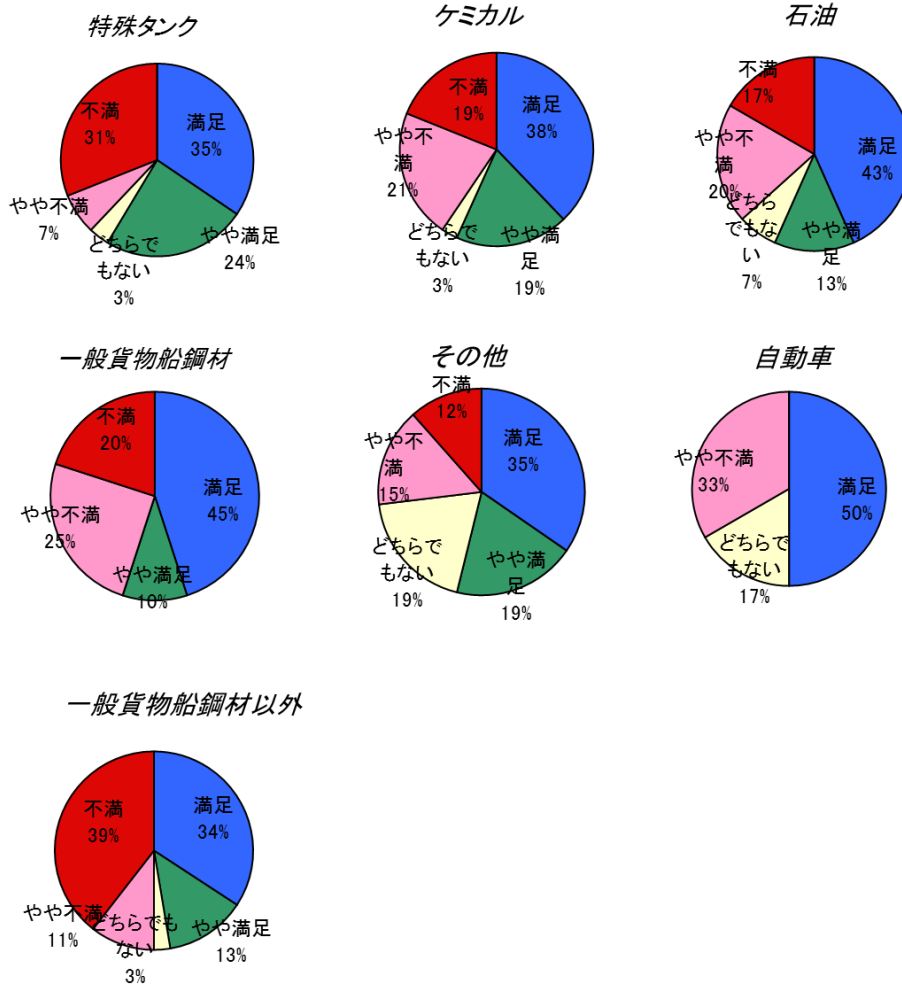
満足度を品目別に見ると次のとおりである。

A. 満足度の高い品目（セメント、石灰石）



セメントの転嫁率は100%、石灰石の転嫁率は95%となり満足度は高くなっている。この2品目については、転嫁方法はコスト保証方式とBS方式によるものとなっている。

B.満足度にバラツキがある品目（特殊タンク、ケミカル、石油、一般貨物船鋼材、その他、自動車、一般貨物船鋼材以外）



特殊タンクの転嫁方法については、コスト保証による転嫁は（44%→37%）と下がり、BS方式による転嫁は（51%→60%）上がった。転嫁率は（64%→74%）と転嫁率は前回調査より上がった。

ケミカルの転嫁方法については、BS方式によるものが（34%→52%）と上がった。転嫁率は（62%→54%）となり前回調査結果より下がった。

石油の転嫁方法については、BS方式とコスト保証方式とに二分されている。コスト保証によるものが（52%→57%）と改善されたため、満足度も（52%→56%）と増えている。転嫁率は（75%→73%）となり、前回調査結果とほぼ変わらない。

一般貨物船鋼材の転嫁方法については、前回に引き続いてBS方式が64%となり、次いで運賃値上げ、コスト保証の順となっている。転嫁率は（92%→87%）と下がったため、不満は（35%→45%）と増えている。

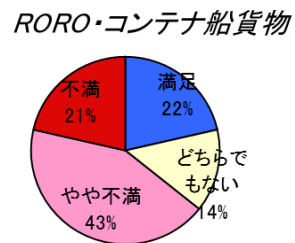
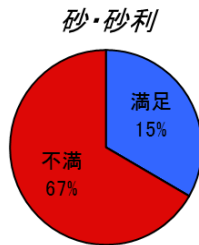
自動車の転嫁方法については、BS方式が（40%→62%）と上がったため、満足度も（43%→50%）と増えている。

一般貨物船鋼材以外の品目については、BS方式によるものが（35%→65%）と大幅に増えたものの、転嫁率は（57%→55%）と前回調査結果より下がったため、不満度は（50%→50%）と

前回調査と同様の結果となった。

C.満足度の低い品目

(砂・砂利、RORO・コンテナ船貨物)



砂・砂利については、長い間低転嫁率が続いていた。前回に引き続き今回全回答数3件のうち、1件の転嫁量で73%の転嫁率となったものの、転嫁のなかった3社が不満と答えている。

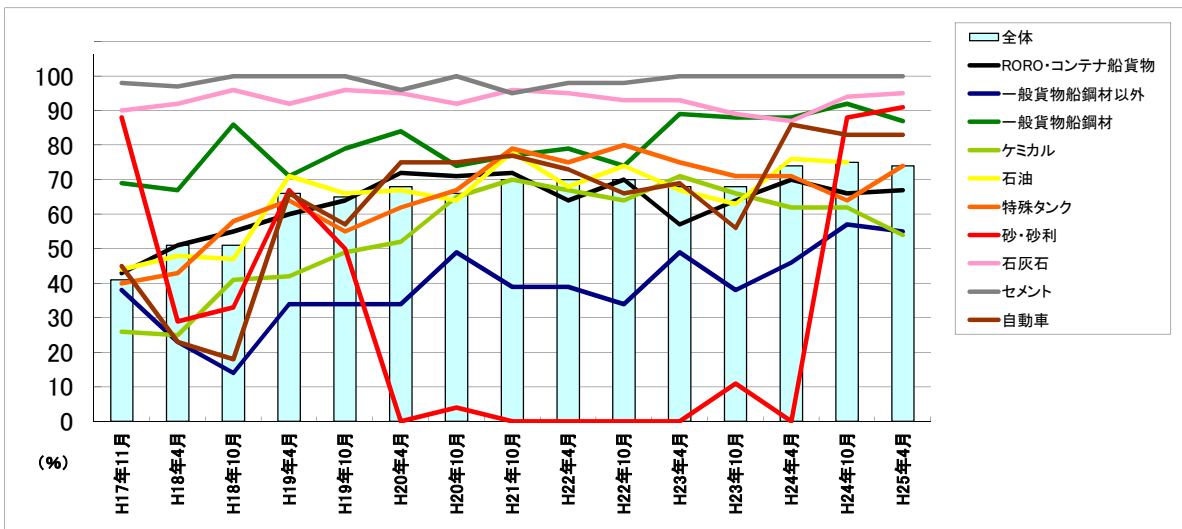
RORO・コンテナ船貨物の転嫁方法については、BS方式によるものが(69%→75%)と増えて、コスト保証は(26%→20%)と下がった。一方、不満度は(74%→65%)と下がった。転嫁率は(66%→67%)となり、前回調査結果とほぼ変わらない。

No.	意見
1	急激な円安により、燃料の価格単価の高騰が続いているが、BSの請求単価は前四半期のC重油決定単価から、金額ランクが設定されるので価格上昇が続くと回収額は後追いとなり、絶えず低額となるため、回収率が悪化するので苦しい状況が続いている。
2	円安の影響で輸出貨物の動きが期待されるが、同時に燃料油の高騰も懸念される。コンテナ輸送はBAFIにて転嫁するが、業者が少ないためか、日韓フィーダーとの競争か、転化率は極めて低い。
3	石油元売りの専航船はサーチャージ又は定期用船により高い転嫁率であるのに対し、フリー船はサーチャージが無く、また、燃料費アップを対象とした運賃の改善が少ないため低い転嫁率である。
4	現在運賃値上げ交渉中です。
5	コスト保証の専航船は問題ないが、汎用ケミカル(スポットオーダー)荷主への転嫁が困難です。特に商社は値上げ等を行うと他船社へオーダーが流れてしまう状況です。
6	コスト保証のため、基本的には転嫁できているが、購入と運賃上のレス幅の差が広がりつつある。(マイナス方向)
7	同業者取引においては、バンカーサーチャージはほとんど転嫁されていない。
8	メーカーサイドは、製品の売価からその製品にかけられるコストを逆算して運賃の上限を考えてくるので、実際に物価が上がってこない運賃値上げは困難。消費者の安物買い志向が結果的に生産者、物流業者を苦しめているが、これは資本主義社会の摂理と言えます。
9	○運賃の修復 ○(市況低迷)景気回復待ち
10	貨物量の不足から、燃料高騰に荷主の対応も厳しい状況である。
11	荷主様より、平成24年4月1日から運賃の2%の値上げが認められた。
12	荷主専航船でバンカー専用船も運航しているので、比較的安価で入手できるので多少は助かっているが、価格の変動があまりわからないのは困る。
13	当社は100%の燃料費保証となっております。
14	当社船は全てコスト保証のため。

転嫁率の推移 (H17年11月～H25年4月)

(単位: %)

品目	H17年11月	H18年4月	H18年10月	H19年4月	H19年10月	H20年4月	H20年10月	H21年10月	H22年4月	H22年10月	H23年4月	H23年10月	H24年4月	H24年10月	H25年4月
RORO・コンテナ船貨物	43	51	55	60	64	72	71	72	64	70	57	64	70	66	67
一般貨物船鋼材以外	38	23	14	34	34	34	49	39	39	34	49	38	46	57	55
一般貨物船鋼材	69	67	86	71	79	84	74	77	79	74	89	88	88	92	87
ケミカル	26	25	41	42	49	52	65	70	67	64	71	66	62	62	54
石油	44	48	47	71	66	67	64	78	68	74	67	63	76	75	73
特殊タンク	40	43	58	64	55	62	67	79	75	80	75	71	71	64	74
砂・砂利	88	29	33	67	50	0	4	0	0	0	0	11	0	88	91
石灰石	90	92	96	92	96	95	92	96	95	93	93	89	87	94	95
セメント	98	97	100	100	100	96	100	95	98	98	100	100	100	100	100
自動車	45	23	18	66	57	75	75	77	73	66	69	56	86	83	83
全体	41	51	51	66	65	68	66	70	70	70	68	68	74	75	74



今回調査では、転嫁率がプラスとなった品目(RORO・コンテナ貨物、特殊タンク、砂・砂利、石灰石)が全体を押し上げ、転嫁率は74%となった。